

## ソウルの地下鉄内で受けた親切

先月、元の職場の友人と韓国を訪ねました。初訪問。一昨年はインド、昨年は中国、そして今年は朝鮮半島と、日本への仏教伝来の地を訪ねる旅の最終地でした。JTBの団体旅行に乗っかり百済へ、そしてフリーの日には新羅の都のあった慶州、さらに南の港町・釜山を新幹線KTXで駆け巡りました。

ソウルは3泊4日の初日に団体の観光バスで回りましたが、ちょっと感激し嬉しかったシーンが帰国日の地下鉄の車両内で起きたのです。

いくつかの仏跡を訪ねた後、友人は国立中央博物館に展示されている半跏思惟菩薩像をぜひ見てみたい、との願望を持っていました。帰国のフライトは午後3時。土産品店での買い物時間も



ソウル 北村韓屋村

あるため10時半には仁寺洞のホテルを出発しなければなりません。しかし博物館の開館は午前10時。わずか30分では、菩薩像を見て再びホテルに戻るのとは不可能です。昼間の市内は渋滞が多いのでタクシーには頼れません。そこでホテル近くの駅から2回乗り換える地下鉄で行くことに。グループの宿泊ホテルは二つに分かれていて、担当のガイドからは、空港により近いもう一つのホテルに11時までに来てもらえばOKとの了解を得ました。

当日、8時少し過ぎにホテルを出て地下鉄で9時少し過ぎに国立中央博物館に到着。旧米軍基地だった広大な公園にオープンした韓国最大、世界でも6番目に大きく展示館は3階建て。小型トランクを荷物預かり所に預けると館の係員に最速で見学する段取りを確認しました。10時。最前列にいた私たちは開館と同時に目的の菩薩像が置かれている3階の部屋へダッシュ。面会で



きた菩薩像は優しくさすが何か伝わってくるものがありました。さまざまな角度から写真も撮影（フラッシュなし）。そして「さあ」と10時20分には博物館を出るとトランクを引きずりながら地下鉄に急いだのです。



国立中央博物館入り口の遠景

11時にバスが出発するホテルに近い地下鉄駅は「高速ターミナル」。計算では博物館から2回乗り換えて30分余りで到着の予定でした。ところが・・・。

路線の番号と駅の番号を調べて2日前に下見までしてきた私たちも、乗り換えの地下構内の通路が複雑で予想以上に長く、最後の乗換駅で迷ってしまったのです。

このままでは間に合わない。空港にも行けない。飛行機にも乗れない。なんとか状況をガイドに伝えバスに待ってもらおう以外にありませんでした。

ところが二人とも韓国内で通ずる携帯電話を持っていません。どうしようか、どうしようか、と焦っていたとき、すぐ近くに座っていた50代くらいの韓国婦人が「お困りの

ようですが何かお役に立てるようでしたら・・・」と日本語で声をかけてきたのです。思いもかけなかった諸天善神の出現に私は飛びつくように事情を説明して「お持ちの携帯を貸していただけませんか？」と。すると婦人は「ガイドさんの電話番号を教えてください」と言いながらスマホでガイドと韓国語で会話、続いて私にそのスマホを手渡してくれたのです。私はガイドに「10分ほど遅れますが到着します」と伝え、二人は必死でトランクを引きずりながら地下鉄構内とホテルへの道路を走ったのでした。

その際、婦人にはお礼の電話料金として 1000 ウォン（約 100 円）を手渡そうとしたのですが、「そんなこと心配しなくて結構ですよ。外国の地で迷ったらお互いさまですから」と固辞。なんともありがたい親切な対応だったのです。



バスにたどり着き乗車すると全員が拍手で迎えてくれました。「よくぞまあ、頑張るお爺さんたちだこと！」と **我々のグループのバス** いった驚きと感銘の響きがあったような気がします。

この時期、徴用工の問題など政治レベルでは日韓関係がぎくしゃくしていましたが、ソウルの一市民の親切な対応に心温まる旅の思い出を残してくれたのです。